



座長

森 隆 先生

大阪公立大学大学院医学研究科
麻酔科学講座
教授

演者

高澤 知規 先生

富山大学学術研究医学系
麻酔科学講座
教授

周術期アナフィラキシー の原因薬剤同定について ～プリックテストを実践してみよう～

概要

本セミナーは、周術期におけるアナフィラキシーへの迅速かつ適切な対応体制の確立を目的として、皮膚テストの手技を麻酔科医に広めたく開催いたします。

セミナーでは、希望者を対象に周術期アナフィラキシーの原因薬剤同定で用いられる、プリックテストのハンズオンも実施いたします。

※聴講のみのご参加も可能です。

※ハンズオンセミナー希望者の中から抽選で 30 名の方にご参加いただきます。

インストラクター

高澤 知規 先生（富山大学学術研究医学系 麻酔科学講座 教授）

杉山 由紀 先生（札幌医科大学医学部 麻酔科学講座 講師）

堀内 辰男 先生（群馬大学医学系研究科 脳神経病態制御学講座 麻酔神経科学 講師）

船引 亮輔 先生（群馬大学医学系研究科 脳神経病態制御学講座 麻酔神経科学 助教）

天野 靖大 先生（名古屋大学大学院医学研究科 麻酔・蘇生医学 助教）

杉本 理 先生（富山大学学術研究医学系 麻酔科学講座 病院特別助教）

日時

2026 年 11 月 12 日 (木)

12:00~13:00

会場

第 5 会場

ダイワロイネットホテル和歌山
4 階「グラン」

〒640-8156 和歌山県和歌山市七番丁 2 6-1

ランチョンセミナーについて

※現地開催のみ。

※事前予約、当日の整理券配布はございません。

※詳細は日本臨床麻酔学会第 46 回大会ホームページにてご確認をお願いいたします。



周術期アナフィラキシーの原因薬剤同定について ～プリックテストを実践してみよう～

周術期アナフィラキシーはまれではあるものの生命を脅かす重篤な合併症であり、再手術時の安全確保には原因薬剤の正確な同定が不可欠である。日本麻酔科学会の周術期アナフィラキシープラクティカルガイドでは、麻酔科医が原因検索に主体的に関与することが推奨されている。一方で、実際には麻酔科医が原因検索を経験する機会は限られており、皮膚テスト、とくにプリックテストを体系的に学ぶ機会も多くない。

本セミナー前半では、全国多施設前向き観察研究 JESPA (Japanese Epidemiologic Study for Perioperative Anaphylaxis) の最新データをもとに、日本における周術期アナフィラキシーの発生頻度や原因薬剤の実態を紹介する。筋弛緩薬、筋弛緩拮抗薬、抗菌薬など、JESPA で明らかとなった主要な原因薬剤によるアナフィラキシーの現状を概説するとともに、原因薬剤同定の流れのなかでプリックテストが果たす役割、適応、実施方法、判定のポイントおよび限界について、実際の症例を交えながら解説する。

後半では、希望者を対象にプリックテストのハンズオンを実施する。器材の準備から穿刺方法、判定までの一連の手技を体験していただく予定である。ランチョンセミナーでハンズオンを取り入れる試みは珍しく、本セミナーでは講義と実技を組み合わせることで、明日からの診療に役立つ知識と技術の習得を目指す。本セミナーを通じて、周術期アナフィラキシーの原因薬剤同定に必要な知識と技術を身につけ、日常診療に役立てていただきたい。

富山大学学術研究医学系 麻酔科学講座
高澤 知規